



長期投資が メジャーになれば 日本の経済は必ず 良くなります

中野晴啓 セゾン投信社長

短期売買が主流の今の日本において、
長期投資をリードするセゾン投信社長・中野晴啓氏。
12月1日に初の単独著書となる
『積立王子の毎月5000円からはじめる投資入門』（中経出版）を上梓した。
「長期投資こそが投信の本来の姿」という氏が抱く、
現在の投資への思いや今後の展望を聞いた。

構成=野村聖子 写真=鱈部春雄

社会貢献こそが 投資本来のあるべき姿

—— 初めての単独著書ということ
ですが、専門用語が少なく、本
に投資の素人をターゲットにし
ているという印象を受けました。

投資そのものにおける原点回
帰という位置づけで書かせてもら
いました。ですから、投資のど
の字も知らない、もしくは投資に

拒絶反応がある人がうっかり手に
とって読んでくれればいいな、と
思っています。もちろん、セゾン
投信のお客さまに向けてという狙

いもありました。運用を開始して
まもなく4年、リーマン・ショッ
ク以降回復はしているものの、設
定当初から投資しているお客さま
の中にはまだプラスにはなってい
ない方もいらっしやる。為替相場
の打撃も受けていますから、そう

いった方に向けて、「投資」本来の
目的を原点に戻って考えてみませ
んか、ということを伝えたかった
のです。

—— リーマン・ショック以降、日
本の投資のトレンドはますます短
期売買に傾いてきています。

仕方のないことかもしれませ
ん。雇用も安定しない、給料も上
がらない、社会保障も減らされる
一方、となると、長期的なキャッ

シユフローを頭の中に描くことは
難しくなる。しかし、それでは投
資の本来の目的からは程遠い。本
来投資というのは、浮利を期待す

るものではなく、自分のお金を経
済成長のために「働きに出す」こ
とだと考えています。それで世の
中が経済成長をした結果、自分も
得をする。僕は良く「プラスサム」
という言葉を使いますが、言っ
てみれば、投資は自分のためだけ

なかの・はるひろ

1963年東京都生まれ。87年明治大学商学部卒業後、西武クレジット(現クレディセゾン)入社。セゾングループで資金運用業務に従事した後、投資顧問事業を立ち上げグループ資金の運用他、海外契約資産等の運用アドバイスを手掛ける。クレディセゾンインベストメント事業部長を経て、06年セゾン投信設立。07年より現職。公益財団法人セゾン文化財団理事。著書に『「いそがない資産運用」のススメ。』(共著、秀和システム)、『運用のプロが教える草食系投資』(共著、日本経済新聞出版社)。

なく「社会貢献」につながるわけです。しかし、短期売買では、お金は長期間市場に出回らないので、経済成長にほとんど影響しません。僕が長期投資を提唱するのは、こういった理由があるのです。

—— セミナーを精力的に行っています。セミナーを精力的に行っているのでしょうか。

既存の金融機関の顧客に多い、いわゆるシニア世代は少なく、20〜30代が中心ですね。大学生に講義をすることもあります。僕は「30年後を見据えた投資」を掲げているので、今後のお客様を増やすという意味でも若い世代の参加者が増えてきたのは嬉しいですね。

—— 最近の若い世代は貯蓄志向と聞かれていますが、投資というテーマへの反応はどうでしょうか。

私も最初は、彼らは投資には拒否反応を示すのではと思っていましたが、「投資は貯蓄と違い、社会貢献になる」というキーワードを掲げると、非常に反応が良い。若い人たちは、これからの社会に対する不安が大きいですから、自分のお金で社会が良くなるという発想には、とても興味湧くようです。

新しい時代の生き方を
長期投資で確立する

—— 投資というと、「草食系」といわれる若い世代にはどうしても「肉食系」のガツガツしたイメージがあると思うのですが。

いきなり投資の方法といった具体的な話をして興味は持ってくれません。そこで「投資は社会貢献」というキーワードを使って、投資は自分だけが得をするためのものというイメージを払拭する。そして、僕が必ず話すのは、これからの生き方について。20世紀の生き方、いわゆる終身雇用制度や年功序列といった価値観が崩壊し、親から正義だと教えられた生き方もはや通用しない。そして

国や社会も助けてくれない、となると、一体何を指針に生きていくのか、という不安が若者の間では大きいのです。だから、他人はもちろんだが、社会にも依存しない、自立した生き方を確立していく上で、自力でキャッシュフローを生み出してこういうじゃないかと。その手段として「投資」という選択肢があるという話をします。既存の価値観にしがみつ

ていては生きていけないという比較的マクロな話から入り、人生において非常に大切なお金をどうするのか、その新しい道筋として投資をしようよ、と話を進めると、若い世代はスムーズに受け入れてくれるように思います。

—— 会社設立から4年、経済状況が著しく変化しましたが、経営方針に何か影響はあったのでしょうか。

もちろん、リーマン・ショック以降、短期売買の傾向が顕著になり、われわれ長期投資家に逆風が吹いていることは間違いありません。しかし、長期投資家にとって「まだ4年」なのです。20年、30年先を見据えていますから、4年という短期間のことで一喜一憂し

ない、それは、設立以降変わっていません。多少翻弄されてはきましたが、最近やっと自分たちの価値のあり方が確立されてきたように思います。既存の価値観から脱却し、これからの社会を自立して歩いていくという人を全力でサポートしていく。「今あるものをとにかくすぐに増やしてほしい」という人は、既存の金融機関に行ってもらえばいい、と割り切れるようになりまし。逆にそうしてい

かないと、21世紀を見据えた資産運用ということが当社としても出来なくなってしまうから。20世紀型の資産はセゾン投信には必要無い、というスタンスを今後は取っていくつもりです。

—— これからの日本経済において、投資が果たす役割をどのように捉えていますか？

長期投資がメジャーになれば、必ず日本の経済を変えていけるでしょう。国民みんなのお金が長期投資を通じて日本経済を活性化する、それが当たり前になる社会づくりを目指す一翼をセゾン投信が担っていければと思っています。

『積立王子の毎月5000円からはじめる投資入門』(中経出版、1470円)「投資」とは、自分が儲けるためではなく、日本の経済を動かす「社会貢献」のツールである。積立王子の異名をとる著者が投資にまつわる素朴な疑問に答えながら、長期投資の活用をすすめる一冊。P125にプレゼント情報があります。

